

【昭和天皇献上の書】

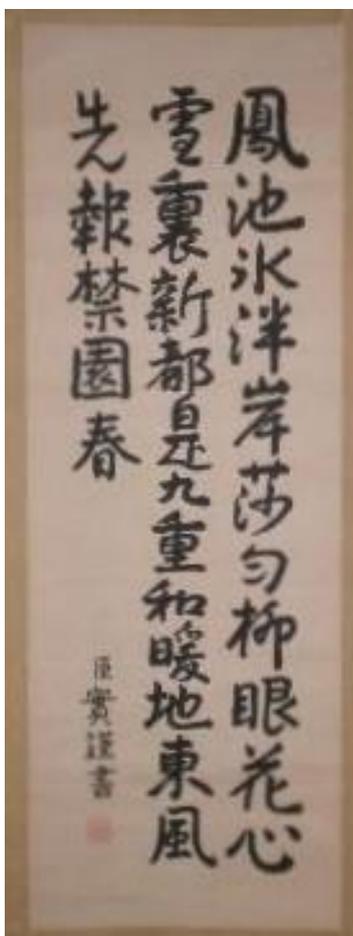
新しい年の幕開けとなった2025年。今年は昭和改元から100年という節目の年にあたります。大正15（1926）年12月、大正天皇の崩御により25歳で昭和天皇が践祚^{せんそ}され、昭和3（1928）年に行われた即位大札式に、實は春子夫人を伴い参列しています。

明治27（1894）年、日清戦争が開戦。實は侍従武官を拝命し、広島に置かれた大本營で明治天皇に供奉。昭和天皇が誕生された明治34（1901）年4月29日には山本権兵衛海軍大臣の下で海軍次官を務め、大正天皇の時代には、海軍大臣、朝鮮総督に任命されています。

その後、昭和4（1929）年朝鮮総督に再任され、昭和7（1932）年には第30代内閣総理大臣に任命されます。現在の上皇が誕生された昭和8（1933）年12月23日は内閣総理大臣在任中で、その後昭和10（1935）年12月26日に内大臣に任命されます。内大臣とは、戦前の日本において天皇の行為や決定に関する進言^{ほひつ}（輔弼）や、御璽^{ぎよじ}（天皇印）・国璽^{こくじ}（国印）の保管、詔勅^{しやうちやく}・勅書^{ちやくしよ}などの事務を所管した重要な官職です。

今回ご紹介する“イッピン”は、内大臣在任中に昭和天皇に献上した書（下書き）で、中国の「絶句類選評本」の中の禁省（宮中へのつとめ）の一文です。内大臣就任時77歳であった實は34歳の若き昭和天皇のそばで、常時輔弼の任にあたっていました。歴代の天皇に仕え、国際感覚を持つ良識人の實は天皇からの評価が高く、厚い信頼を寄せられていました。

当館に残されているこの書は、下書きながら一字一句非常に丁寧に書かれており、落款も押されています。實の誠実な人柄と、天皇への尊敬の念が行間からにじみ出ている作品です。實の死後、「財団法人齋藤子爵記念會」によって刊行された『子爵齋藤實傳 第四卷』においても図版として掲載されています。



鳳池の氷は泮け岸沙勻し、柳眼花心
花心雲裏に新たななり
都て是れ九重和暖の地、東風先に
報ず禁園の春

（意味）
宮中の池の氷は解けたが岸に咲く莎（はますげ）は均しく生えそろう、柳の新芽の花のしべは、まだ残る雪の中に新しく生き生きと顔を見せている。
ここ宮城は何処も穏やかで暖かい所なので、春風が吹いて、何処よりも先に宮中の庭園に春が来たことを知らせている。